

物資を要求するマンドと社会的賞賛を要求するマンドが
同一の機能クラスであるかの検討

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
対人援助学領域
障害・行動分析クラスター
荒井 将多

本研究は、物や解決策を求めるマンド（以下、物質マンド）と承認や社会的賞賛を求めるマンド（以下承認マンド）が、同じ機能の反応クラスであるかについて、統制群と実験群を設け、介入による前後の比較検討を行うことで明らかにすることを目的とする。独立変数として、統制群には物質マンドの非随伴性強化、実験群には物質マンドの随伴性強化による介入であった。従属変数には、承認マンドの反応数の変化とする。同じ機能の反応クラスであるすると、統制群では、物質マンドへの非随伴性強化では承認マンドの反応数は増えず、対照群では、物質マンドへの随伴性強化を行うことで承認マンドの反応数は増加すると考えられる。

方法は、男女5名ずつを統制群と対照群に分け、介入前後の承認マンドの反応数の変化についての比較を行った。実験課題には、パズル課題を用い、介入期には、20の扉のゲーム行い、統制群は物質マンドの非随伴性強化を行い、実験群には物質マンドの随伴性強化を行った。承認マンドが生起する場面として、「知っている人」と「知らない同性」、「知らない異性」を設定した。

結果は、実験群で承認マンドの反応数に増加が見られた。また、承認マンドの反応数のトレンドの変化が見られたのと同時に、「知っている人」の反応数のトレンドに変化が見られた。

本実験の結果から、物質マンドと承認マンドが同じ機能の反応クラスである可能性が示唆された。また、「知っている人」という弁別刺激が、同じ機能の反応クラスとして成立する要因として考えられた。